

富士川第一、第二發電所工事

日本輕金屬株式會社 內 海 清 溫
取締役電力建設部長

本工事の特異點は富士川の急流中に堰堤を築造するものなる故、第1に堰堤の根入を大にして倒壊を防ぐ事、第2に施工地點の流水多く普通の掘鑿の出來ぬ事、第3に工期を急ぐ事等の爲に、堰堤基礎に潜函工法を採用した事である。

富士川第一發電所

1. 計劃の大要

山梨縣西八代郡大河内村地内に於て、富士川を横斷して堰堤を築造し、左岸に取水口を設け、延長約17軒の隧道を通し、三條の水壓管を経て發電所に導き、發電後の水は、直に下流第二發電所へ導水せしむるものにして、既設上流波木井發電所運轉後の水は、波木井連絡サイホンにより、堰堤中を通し沈砂地後方に於て、本流よりの水流と合流せしむるものとす。

2. 水利關係大要

取水口の位置 (本流)山梨縣西八代郡大河内村大字帶金字履島。

(波木井發電所放水)山梨縣南巨摩郡身延町大字波木井字宮の花。

使用水量 最大 66毎秒立方メートル。
常時 39.45毎秒立方メートル。
有効落差 69.88米
發電力 38,200K.W.
年發生電力量 314,554,100K.W.H.
流域面積 3,045.4平方公尺

3. 水路工作物大要

堰堤

構造 固定堰並可動堰部よりなり、コンクリート造り直線型。

敷幅 可動堰部 23米

固定堰部 27米
堰高 4.5米

堤長 290米
門扉 幅20米 高5米3門
土砂吐門 幅7.5米 高5米2門

取水口

構造 混凝土造り。
最大水深 1.5米
有効全幅 20.05米
制水門 高4.8米 幅5.0米

